

2018年7月17日

私立大学図書館協会  
国際図書館協力委員会  
委員長 稲垣 智成 様

2018年度私立大学図書館協会海外認定研修（B）報告書  
— ニューオリンズ・ヒューストン 学修支援サービスを中心に —



大正大学 学術推進部 図書情報課  
山口 諒

目 次

はじめに-----	1
訪問先と日程-----	1
① ALA 2018 Annual Conference and Exhibition（ALA 年次総会）-----	2
② Loyola University Monroe Library（ロヨラ大学モンロー図書館）-----	3
③ Tulane University Howard-Tilton Memorial Library （テュレーン大学ハワード-ティルトンメモリアル図書館）--	4
④ Houston University Alfred R. Neumann Library （ヒューストン大学クリアレイク校アルフレッド R ノイマン図書館）---	5
⑤ Lonestar University Library（ローンスターカレッジ図書館）-----	7
⑥ Rice University Fondren Library（ライス大学フォンドレン図書館）-----	8
おわりに-----	9
謝辞-----	9
参考・資料-----	9

## はじめに

周知のとおり、アメリカの高等教育においては日本に比べて数十年先を進んでいる。大学図書館も同様であり、図書館の機能や所属するライブラリアンの役割、モチベーションの高さ、周囲の認知の高さも日本より高い水準を保っている。今回は、筆者奉職の大正大学附属図書館において新たな学修支援の場としての新図書館建設予定の参考として、また、知見を広げるべく研修に参加した。研修では公共図書館と大学図書館を訪問したが、大学図書館の利用者サービスを中心に報告書の記載を行う。

## 訪問先と日程

研修名：「ALA・米国図書館研修 2018（ニューオーリンズ・ヒューストン）8日間」

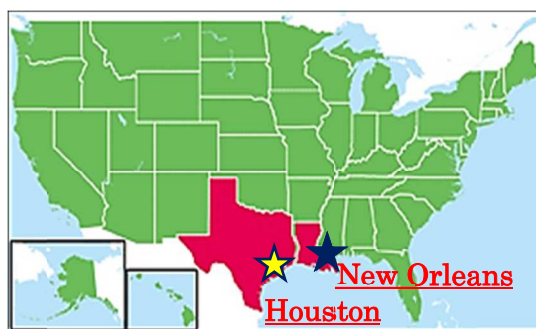
日程：2018年6月23日～6月30日

訪問先：

ルイジアナ州ニューオーリンズ

テキサス州ヒューストン

- [Houston University Alfred R. Neumann Library](#)（ヒューストン大学クリアレイク校アルフレッドRノイマン図書館）
- [Lonestar College Library](#)（ローンスタールカレッジ図書館）
- [Rice University Fondren Library](#)（ライス大学フォンドレン図書館）
- [Houston Public Library](#)（ヒューストン公共図書館）



- [ALA 2018 Annual Conference and Exhibition](#)（ALA 年次総会）
- International Relations Round Table
- Rosa F. Keller Library and Community Center（ローザ・F・ケラー図書館）
- New Orleans Public Library（ニューオーリンズ公共図書館）
- [Loyola University Monroe Library](#)（ロヨラ大学ニューオーリンズ校モンロー図書館）
- [Tulane University Howard-Tilton Memorial Library](#)（テュレーン大学ワード-ティルトンメモリアル図書館）



※ニューオーリンズは、2005年8月大型ハリケーン「カトリーナ」により、街の8割が水没。長年復興活動が続いている。

① ALA 2018 Annual Conference and Exhibition (ALA 年次総会)



6月24日にALA(American Library Association)年次総会に出席し、Meeting Session や企業の出展ブースに参加した。参加した Meeting Session は以下である。

・ Breaking Down Barriers:

Serving the First-Generation Student in Today's Academic Library.

(バリアを壊す：第1世代の学生に向けて今日の学術図書館)

第1世代(両親共に大学へ進学しなかった学生)の所得格差等に起こる学習の差を図書館の学修支援の立場からどのようなアプローチができるのかといった、アメリカならではのセッションである。支援事例としては教科書等の無料公開がメインである。近年はワークショップの開催を増やし、対象の学生のみではなくその保護者の参加も促すことで、“共に学ぶ環境作り”が増えているとのことであった。



2つ目の Session

・ Motivating Library Learners:

Three Theories to Enhance Teaching.

(動機づける図書館学習者：教育を強化する3つの理論)

では、図書館利用者のモチベーションを高める取り組みに必要な3つの理論として、モデル理論の紹介と展開、それを用いた例の展開であった。事例としてはARCSモデル<sup>(※1)</sup>(注意 Attention・関連 Relevance・自信 Confidence・満足感 Satisfaction)の提唱やモンロー式説得法(Moroe's Motivated Sequence)の紹介とそれを図書館でのガイダンス等に当てはめてどのように利用者サービスを行なっていくかが論点である。こちらは、日米に限らずどの大学図書館においても大きな課題として取り組み、実践すべき内容であった。



Sessionの他には、各企業や出版社による出展ブースやポスターSessionが立ち並んでおり、書籍や商品・サービスの説明を受けながら自由に見ることができるエリアとなっており、世界のライブラリアンが様々な取り組みを学ぶ貴重な機会であった。



(※1)

『教育工学事典』：日本教育工学会.2000



## ② Loyola University Monroe Library (ロヨラ大学ニューオリンズ校モンロー図書館)



ロヨラ大学モンロー図書館は、従来の図書館機能と新技術を導入した図書館となっており、日々、学生・教職員へ向けてサービス向上を図り、米国の美しい大学図書館ベスト 25 にもランクインしている。



【雪の結晶をイメージした閲覧席】

大学の学問分野は法学・ビジネス・アーツ&サイエンス・音楽・美術等であり、準じた資料を所蔵している。特化した取り組みは情報リテラシー教育で、初年次教育

「First year seminar」として必修科目授業を行い、学期末にはテストを実施。その結果はガイダンス内容・方法・場所等の改善に活かすことで、PDCA としている。

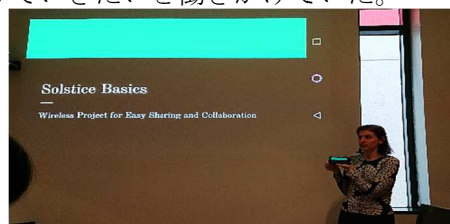


授業以外では、音楽学部の特化した特別ガイダンスや教員に対しての資料作成補助・1年生へ担当の専門ライブラリアンの紹介として、カウンターやHPでは各学科担当ライブラリアンの紹介が顔写真付きであり、学問分野に精通する資料の紹介も併せて実施。また、1Fフロアの変更を行い、奥まったところにあったレファレンスブースをカウンターの横にし、オンラインでレファレンス予約や気軽に連絡が取れるようチャット Box を用意。さらには、教員に対して、「授業等で、特別に授業支援が必要な学生いないですか」と利用を促した。こうした整備やアプローチの結果、レファレンス件数は 50%増加し、学修支援としての図書館利用を高めている。



近年は IT サービスの向上にも力を入れ、図書館 PC ルームでは、教室内の全 PC 画面や室内カメラの映像をスクリーンにて共有できるソフトを用意し、授業やガイダンスでの幅を広げるほか、各自のスマートフォンと連携するアプリにより、手持ちのままでプレゼンを可能とした。

このようにロヨラ大学図書館では、様々な視点の改善や工夫を行い、図書館存在価値の向上を図ることで、より良い支援に繋がっていきたくと働きかけていた。



③ **Tulane University Howard-Tilton Memorial Library** (デュレーン大学  
ワード・ティルトン メモリアル図書館)



デュレーン大学図書館は1968年に設立し、今年で50周年を迎える。ニューオーリンズという場所柄、世界最大級のジャズコレクションを所蔵しており、図書等に限らず録音データ等も保管している。



1Fはラーニングcommonsやカフェを併設し、2016年にはフロアを2階分増築の6F建てとした。これは2005年のハリケーン:カトリーナでフロアが冠水。所蔵資料も多く廃棄となったことを受け、新規増築を行った。現在でも書架棚が全て空の箇所もあり、今後資料を補う予定とのこと。



このように紙媒体(図書)数の増減もあるが、近年は資料のデジタル保存が主流となり、図書関連予算の約70%を使用して

徐々に移行が進んでいるが、新たな取り組みとして、既に電子化した資料をどのようにアーカイブしていくかを検討している。

また、全資料を電子化しているわけではないため、開架資料の集密書架も数多く設置しているが、書架は電子化せず、全て手動であった。この書架は高さもあり、上まで図書が入っているが、とても軽く動かすことができる書架を使用していた。災害時の混乱を防ぐためにも、今後も電子書架の予定はないとのことであった。



4Fはラテンアメリカライブラリーとして専用書架を設けている。ニューオーリンズはアメリカ南部に位置しており、ジャズを含めて多くの資料を所蔵していること等から特化したフロアを設置している。



ニューオーリンズという土地と、ジャズ音楽資料の大規模保存(ほとんどが寄贈された資料)を基に学生や教職員・世界の研究者へ向けての図書館機能の向上に努めている図書館であった。



④ Houston University Alfred R. Neumann Library (ヒューストン大学アルフレッドRノイマン図書館)



ヒューストン大学クリアレイク校図書館では学修支援はもちろんのこと、学生に対し、“図書館を楽しい場所”の提供に力を入れている。内容としては展示・イベント・空間等である。



カウンター横 閲覧スペース

(1)展示：様々な展示を用意していた。(教員の執筆本/NASA/スターウォーズなど)

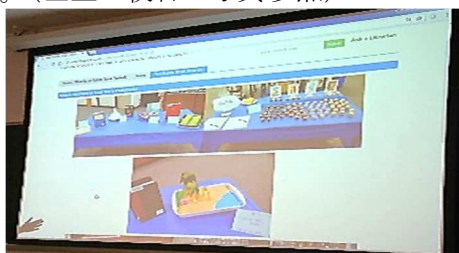


また、図書館利用者へのオープンクエストションとして、入口すぐに質問を投げかけて交流を図っている。(今回はハリケーン対策についてであり、関連本と併せてホワイトボードを設置していた。) 学生や教職員等多くの利用者が回答記入をしており、図書館から一方通行ではなく、相互の取り組みとしていた。



【入口のオープンクエストション】

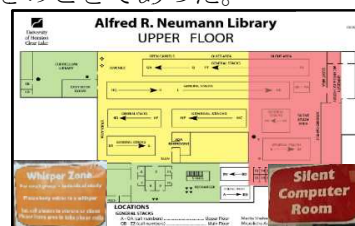
(2)イベント：従来のガイダンスや情報リテラシー教育の授業とは別に主催イベントを実施している。紹介例としては、「セラピードッグ」や「食べられる本」(本の中の描写や風景を食べ物で表現し、図書館で発表の後、参加者で食べるイベント)と称したイベントであった。これらは、普段の利用者にだけでなく、図書館にあまり来ない学生へのPRとしても行なっており、開催告知は大学内へのポスターやSNSにて周知を行い、多くの学生や熱心な学生が参加し、効果を見込めたとのことであった。また、「セラピードッグ」は好評もあって、図書館入口の名称のところにも犬の絵をつけている。(左上1枚目の写真参照)



【イベント「食べられる本」紹介】

(3)空間：多様な学生のニーズため、閲覧席や個別ブース等の空間作りも工夫していた。各フロアは色で私語可・不可を区別して利用者に判別しやすい表示に、とても効果的であったとのことであった。

【フロアマップと表示⇒】





【グループ学習ブース①】

【グループ学習ブース②】



【クレジットカード式の  
スターバックスコーヒー  
自動販売機】

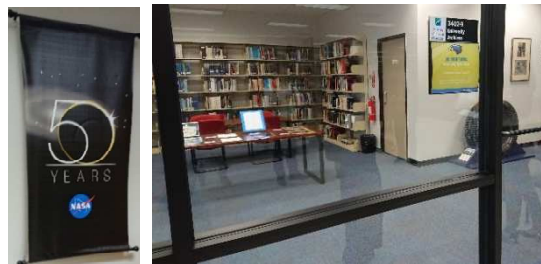
このような空間作りの中で日本にはない特色として、アメリカは社会人学生が多いことから、小さい子供を連れて一緒に図書館が利用できるようにと児童書のコーナーを「EASY BOOKS」として設けている。ここは上記のような学生だけでなく、教育学・教職課程を目指す学生向けとしても機能しており、複数の役割を果たしている。



展示・イベント・空間の以外にも新入生への情報リテラシー教育の授業に力を入れており、終了後には Web 上でフィードバッククイズを実施し、理解度を図るとともに次回への改善点として明確にしている。実施クイズは各データベースごとに準備があり、ガイダンス内容に応じて行った結果、Web クイズにより理解度は年々上がっているとのことであった。また、教員向けに論文の書き方・投稿の仕方の講座を実施し、リポジトリの充実化へつなげ、研究機関としての更なる向上を図るとのこと。

## NASA との連携

1989 年より NASA との提携により、NASA 関連資料のアーカイブスを設立し、専門のライブラリアンの配置によって NASA を始めとした全世界の研究者からのレファレンスや資料提供のハブとして機能している機関である。設立のきっかけは NASA の所属員たちが大学の授業を受けられる環境を作りたいとの申し出から始まり、現在へ至っている。



※実際のスペースシャトルのタイヤ

このようにヒューストン大学クリアレイク校アレック校アルフレッド R ノイマン図書館では、利用者への閲覧環境・サービス向上に力を入れながら、知の宝庫として、NASA 提携大学として重要な役割を担って日々発展する大学図書館であった。

参考：ヒューストン大学クリアレイク校図書館 HP <https://www.uhcl.edu/library/>



⑤ **Lonestar University Library**  
**(ローンスターカーレッジ図書館)**



ローンスターカーレッジは公立の2年制大学であり、地域に向けて教育を提供するコミュニティ・カレッジとして運営している。また、卒業後は89%の学生が4年制大学へ編入するという。この大学図書館の最大の特徴は、2003年にハリス群公共図書館と大学図書館が複合した“**Joint Library**”である。ここは大学図書館に後から複合ではなく、初めから**Joint**でとのコンセプトを持って開館しており、サービスも学生・教職員と一般利用で差はない。



(例：ILLは全員無料)  
**【←ILL 受け取り BOX】**  
 (申請者の名前のBOXがイニシャル順に置いてある)-----

**Joint Library**のメリットは、所蔵資料の分野が幅広く取りそろえられる点である。

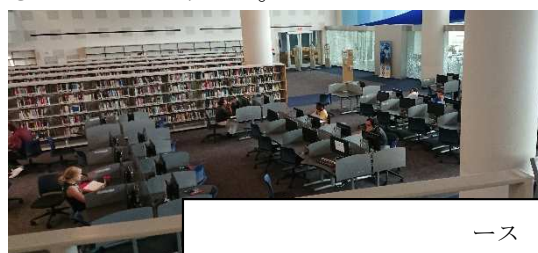
(例：児童書・アニメ・マンガなど) 児童書コーナーは扉で仕切りをつけ、話ができるようにしているほか、図書館主催イベントや大学教員・教育学部学生によるサービスラーニングの場として、一般利用者と大学利用者の交流を設けている。



【児童書スペース】児童プログラム受講後は壁に

☆や♪の紙に参加者が名前を書いて修了を示している。

また、図書館主催プログラムは、児童対象に限らず用意されており、各会終了後にポイントが付与される。ポイントは取得数に応じて図書等の景品が貰えるようになっており、年間多くの利用者が参加しているとのことであった。



サービスは公共・大学の片方にのみではなく、両方に適したもしくは織り交ぜたものを提供することができ、運営の背景としても、2種類の予算源を持つことも大きな基盤である。予算は主に図書費を公共側予算、ハード面を大学予算で賄うことで棲み分けや不足時の充足として折り合いを為しているとのことであった。このように公共と大学図書館の機能を合わせ持つことで、1:所蔵種類の多さ、2:サービスの多様化、3:2種類の予算、というメリットを活用して運営をしており、**Joint Library**の成功例として発展していくほか、大学として大きなPRポイントとなっているとのこと。他館にて検討中の図書館へは情報提供等の協力体制を取っていくとのことであった。





⑥ Rice University Fondren Library  
(ライス大学フォンドレン図書館)



ライス大学は 1891 年設立の建築・工学・人文社会系の学部を持つ私立大学である。その中のフォンドレン図書館は、一般利用でも利用可能として大学に関する資料だけでなく、テキサス州に関わる資料の所蔵・保管しており、近年では貴重書のデジタル資料のアーカイブスを行なっている。



地下には DMC(デジタルメディアセンター)を始め、GIS Data Center など複数のデジタル対応セクションを設けており、DMC では、大型プリンターやフォトスタジオ・多数機器の使用や貸出を行い、自由に使用することができる。



また、GIS Center では、地理地形を把握できるシステムを導入し、教職員や学生の研究・学生のプロジェクトに利用されている。具体例としては、「ワインバーを作る」というプロジェクトに対し、建設立地や人



の流れ、地盤等を GIS で分析し、計画を進めた。ライス大学では、建築学部や歴史学部を始め、ほぼ全ての学科で使用支援依頼があり、活用されているとのことであった。(音楽学部のみ無し)



その他、図書館の利用環境サービスとして、利用者向け案内カードとブックアートが挙げられる。利用者向けの案内カードとは、図書館に関する利用の際の注意やサービスの種類・紹介等を行なっているカードであり、訪問時には計 15 種類のカードが用意されていた。(例：図書館の開閉時間の記載についてや、配慮が必要な場合の案内など) これらは 1 か所のみではなく、数か所にいつでも取れる形で設置されており、フクロウの

マスコットをモチーフにポップなデザインで手に取りやすいものであった。



また、ブックアートについては、不要となった書籍を積み上げて壁に設置し、その上からゾウやキリン、樹木の絵が描かれているもので、インパクトのある取り組みとなっていた。



Center



2004年に設立したライス大学から車で20分程度の場所にある書庫センターである。フォンドレン図書館で利用頻度の低いものや貴重書等を温湿度徹底管理の下（書架内温度は約15度）、元運送業経験者の管理員たちが保管をしている。図書の出納は、日々の利用リクエストに応じて50冊～100冊の資料を1日2便を定期便として運営。既に100万冊以上の所蔵をしており、今後は第2棟をすぐ隣に建設予定とのことであった。また、多くの図書を管理しているが、図書の取り戻しは専門係員がリフトに乗って手作業で行っており、今後も機械化の導入予定はないと話していた。



このようにライス大学図書館では、表立ったものと裏側の学修支援を手堅く行なっている図書館である。また、2012年からはWEST(Western Regional Storage Trust)に加盟し、シェアードプリント・プロジェクトにて紙媒体学術雑誌の分散型ネットワークの構築を進め、他館との連携をより深めながら、図書館機能の向上に努める大学であった。

## おわりに

今回の研修にて、アメリカ図書館の素晴らしい建物・最新機器などの設備・利用者を考え、支援するための様々なサービスを見ることができたほか、ここで出会った各図書館の方々は、ライブラリアンとして学修・研究支援の姿勢や立場などの向上に対し、個人個人の熱意が強く感じられた。これは私にとって、モチベーションの向上としてとても参考になった。また、研修中には本学の事例も伝え、情報交換や交流もできたため、学び得た多くの特徴的な事例を自大学等へ周知するとともに、それを活かして今後の図書館の発展に貢献したい。



【ALA・International Relations Round Tableにて】

## 謝辞

この度、海外研修という貴重な機会に参加させていただき、多くのご支援ご協力を賜りました。私立大学図書館協会・国際図書館協力委員会・図書館総合展運営委員会・丸善雄松堂・IWA ツアーの皆様・各訪問大学や図書館の皆様・研修参加者の皆様・参加許可や支援を頂いた大正大学附属図書館の皆様に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

## 参考資料

『教育工学事典』：日本教育工学会.2000  
ロヨラ大学モンロー図書館 <http://library.loyno.edu/>  
テュレーン大学図書館 <http://library.tulane.edu/>  
ヒューストン大学図書館 <https://www.uhcl.edu/library/>  
ローンスター大学図書館  
<http://www.lonestar.edu/up-library.htm>  
ライス大学図書館 <https://library.rice.edu/>  
事前説明資料・現地での説明および配布資料